



NCAJ

National Camping Association of Japan

事業計画書 2013

公益社団法人日本キャンプ協会

2013 年度 公益社団法人日本キャンプ協会 基本方針

2013 年度は、日本キャンプ協会の公益社団法人としての最初の 1 年が過ぎ、キャンプによる社会貢献をより具体的な形で示していく年となります。ひと言に「キャンプによる社会貢献」といってもその方法は多様であり、私たちが持ちうる資源を十分に吟味し、必要性の高い分野、得意分野に注力していく必要があります。

2012 年度より、日本 YMCA 同盟、朝日新聞厚生文化事業団との共同事業として進めてきた「グリーンキャンプ」については、東日本大震災で親を亡くした子どもたちを主な対象にキャンプを行い、その方法論や悲嘆状態にある子どもたちに対するキャンプの意義といったものも明らかになってきました。2013 年度は、悲嘆ケアを行う団体等とも協力し、普及に向けた取り組みを進めます。

実際にキャンプに携わる指導者の養成についても、キャンプによる社会貢献を明確に意図したものとなるよう、指導者資格制度の修正に着手します。2011 年度から、キャンプディレクター 2 級講習会の受講機会の多様化に取り組んでいますが、まだ十分な成果を上げるに至っていません。質を保ちながら、より受講しやすい資格制度のあり方を構築するとともに、フォローアップのための研修等の情報提供、各都道府県キャンプ協会や各ブロックが行う事業の支援にも努めます。

日本キャンプ協会設立 50 周年となる 2016 年秋には、アジア・オセアニア・キャンプ会議(AOCC)の日本での開催を計画しています。もちろんこのような大きな事業は、日本キャンプ協会単独で行うことはできません。会議を成功に導くことができるよう、多様な関係団体の協力を得て、2013 年度に組織委員会を設置します。このとき、単に団体間の協力関係を築くにとどまらず、若い世代のキャンプ指導者の交流の場を設けるといったことを通じ、重層的な運営体制をつくりあげたいと考えています。

こうした取り組みを経て、キャンプによるさまざまな社会貢献のあり方を見だし、広げていく取り組みを進めます。

法人運営に関しては、継続して安定的な運営が行えるよう、日本キャンプ協会の適正規模を模索するとともに、新たな支援者層の獲得を目指す必要があります。現在の社会状況を鑑みると、単純な規模の拡大は望めません。しかし一方で、市民活動の重要性は高まっています。たとえば、子どものいじめや虐待、貧困といった問題が指摘される中、キャンプを通じてこうした問題の解決を図ろうという動きもあり、そういった活動を物心両面で支える新しい支援者の獲得が不可欠です。こうした時代の要請に応える、今までの会員制度の枠を超えたファンドレイジングの具体的な仕組みづくりに取り組みます。

2013 年度は、これまでに構築した公益法人という枠組みの中に、一つひとつ具体的な事業のピースをはめ込んでいく地道な作業を進める 1 年となります。役員や運営委員、都道府県キャンプ協会に関わる方々など、公益社団法人の基礎となる「人の力」を結集して、次のような事業を着実に進め、キャンプを通じた幸せな社会づくりに貢献したいと考えています。

キャンプを通じた社会貢献の推進

全人的成長に寄与するキャンプの特性を十分に生かし、グリーンキャンプをはじめとする、さまざまな社会的課題に対応しうるキャンプとその関連事業の実施に努めます。

- ・ キャンプを通じた具体的な社会貢献のあり方の模索
- ・ グリーンキャンプの実施と普及のための取り組み
- ・ キャンプの意義の周知を図るための取り組み
- ・ 都道府県キャンプ協会との連携による普及事業の実施

社会に貢献できるキャンプ指導者の養成

安心安全で有意義なキャンプを実施できるキャンプ指導者を養成するとともに、地域に根付いた活動が継続できるような支援を行い、社会に貢献できるキャンプ指導者層の拡大に努めます。

- ・ グリーンキャンプなど対象別指導者養成の充実
- ・ 研修事業などを通じた指導者養成団体と会員との関係づくりの支援
- ・ キャンプディレクター養成制度改善への着手

キャンプムーブメントを広げるネットワークの醸成

多様な共同事業が行えるよう関係団体とのネットワークの強化を図るとともに、日常的に子どもの支援を行っている団体とキャンプ運営団体を結びつけるなど、キャンプを軸にしたネットワークの醸成に努めます。

- ・ 関係団体との共同事業の実施や研修等の情報の共有
- ・ 2016年のアジア・オセアニア・キャンプ会議開催に向けた組織委員会の設置と団体間の交流事業の実施

持続可能な運営体制の構築

継続的な運営を可能にする組織の適正規模を見極め、事業および法人運営の効率化を図るとともに、新しいファンディングの仕組みづくりに努めます。

- ・ 日本キャンプ協会の適正規模の模索とそれに合わせた事務局機能の再編成
- ・ 新しいファンディング*の仕組みづくり

※ファンディング：民間非営利団体が活動のための資金を集めるための取り組みの総称。

2013 年度

公益社団法人日本キャンプ協会 事業計画

キャンプの活動を発展させ、広めていく事業（公1）	4
よりよいキャンプを実現する指導者養成の事業（公2）	9
キャンプの質の向上につながる研修及び調査研究の事業（公3）	11
法人事務	12

キャンプの活動を発展させ、広めていく事業（公1）

さまざまな社会的課題に対応するキャンプが広く行われるよう、先行事例の情報収集やモデルとなるキャンプを実施するとともに、そこから得られた情報の共有を図る事業を関係各団体と協力して実施する。

（1） グリーフキャンプ（悲嘆状態にある子どもたちを対象としたキャンプ）

2011年3月11日の東日本大震災発生直後から、国内外のキャンプ関係者や団体による支援と協力を得て進めてきたグリーフキャンプを継続して実施する。

このキャンプにおいては、通常のキャンプ指導者としての知識、技術に加え、グリーフケアに関する理解が欠かせない。そこで、引き続き海外等の先行事例に学び、スタッフトレーニングに生かすとともに、さまざまな媒体を通じて、広く伝えていく取り組みも進める。

① グリーフキャンプの実施

被災児童各回30人程度を対象に、夏休み及び春休み期間に2回のキャンプを実施

第1回 8月を予定 会場未定

第2回 3月を予定 会場未定

※ このキャンプは、日本YMCA同盟、朝日新聞厚生文化事業団との共同事業として実施し、朝日新聞厚生文化事業団に寄せられた寄付金を利用。

② グリーフキャンプに携わるスタッフの研修

グリーフケアの理解を中心に、グリーフキャンプに携わるスタッフを対象とした研修を実施

※ 一部はキャンプアカデミーとして実施

③ 海外のグリーフキャンプ先行事例等の研究

➤ El Tesoro de la Vida での実習

7月27日(土)～8月3日(土) アメリカ・テキサス州

➤ The Moyer Foundation 2013 Bereavement Conference への参加

10月10日(木)～11日(金) アメリカ・ペンシルバニア州

④ 社会に向けたグリーフキャンプの啓発活動

➤ CAMPING 連載「Gift for the Next 100 Years」（年6回 WEB サイトでも公開）

➤ キャンプアカデミー等の一般向け事業

➤ 海外向けニュースレター（年3回程度）

➤ 2年間のグリーフキャンプの取り組みをまとめた報告書の発行

（2） 地域事業支援プログラム（広域的もしくは公益性の高い事業の実施支援）

社会的課題に応えるキャンプが広く行われるためには、全国レベルでの啓発活動が行われるとともに、地域に密着した活動が各地で行われ、広くキャンプに対する認知を高めることが重要である。そこで、都道府県キャンプ協会が中心となって行う広域的もしくは公益性の高い事業に対して、資金的及び人的なサポートを行う。

対 象： 都道府県キャンプ協会及び地域ブロックが実施する広域的もしくは公益性の高いキャンプに関連する事業

2013 年度支援予定団体・事業

団体名	事業概要
北海道・東北ブロック	スキルアップ研修 (特別認定によるディレクター取得者を主な対象とした研修会)
福島県キャンプ協会	親子を対象とした「災害対応キャンプ」 (何事にもへこたれない子どもの育成を目的としたキャンプ)
愛知キャンプ協会 (中部・北陸ブロック)	ユニバーサルキャンプフェスタ～美浜の海と緑に親しむ1日～ (事前研修とブロック各県によるアクティビティ提供を含む)
滋賀県キャンプ協会	キャンプ活動の力～そのとき！あなたにできること～ (県内関連団体の協力の下で実施する防災デイキャンプ)
近畿ブロック	関西野外活動ミーティング 2014 (研究者と実践者の交流及び若手指導者の研修機会となる広域事業)
広島県キャンプ協会 (中国・四国ブロック)	アウトドアセミナー (多くの団体の共通課題である若手育成を目的としたシリーズ研修会)
九州・沖縄ブロック	第2回九州キャンプ大会 (ブロック内の連携強化を目的としたつどいと一般向けデイキャンプ)

(3) キャンプアカデミー (キャンプに対する理解を深めるための研修事業)

時代の要請に応えるキャンプを行うためには、キャンプそのものの知識や技能だけでなく、周辺領域の事柄について知ることにもまた大切である。これらは、キャンプ指導者のみならず、社会教育や地域福祉に携わる人々にとっても有用な情報となりうる。そこで、キャンプとその周辺領域の事柄について学ぶ機会を提供するものとして、以下の事業を行う。

① キャンプアカデミー (日程、会場、内容は未定)

会員だけでなく、一般も対象とした研修機会としてキャンプアカデミーを実施する。

② 出合いと体験の森へシンポジウム (仮称)

主 催： 出合いと体験の森へ実行委員会

日 程： 2014年2月

会 場： 東京 YWCA 会館

※ 「出合いと体験の森へ」は、教育的キャンプを推進する5つの団体(日本キャンプ協会、日本YMCA同盟、東京YWCA、ボーイスカウト日本連盟、ガールスカウト日本連盟)が共同で実施する事業

(4) アジア・オセアニア・キャンプ会議開催に向けた取り組み (AOCC 組織委員会)

2016年秋に予定している第6回アジア・オセアニア・キャンプ会議に向けた AOCC 組織委員会を設け、2014年度以降の具体的な準備のための枠組みづくりを行う。

第6回アジア・オセアニア・キャンプ会議の概要

日 程： 2016年11月(4日間を予定)

会 場： 未定

テーマ案： Outreach ～手をさしのべる、キャンプ～

共 催： アジア・オセアニア・キャンプ連盟

協 力： 国際キャンプ連盟 他

(5) キャンプに関連する情報の発信及び相談業務

会報誌「CAMPING」を発行するほか、WEBやメールなどを活用してキャンプに関連する情報の発信に努める。また、キャンプインフォメーションセンターを運営し、一般のキャンプ愛好者等の相談に対応する。

① 会報誌「CAMPING」の発行

キャンプの教育的、社会的意義や安全にキャンプを行うための情報などを会員を中心に広く伝えるために、会報誌「CAMPING」を発行する。

年6回発行 各15,000部

152号(4/5月)	153号(6/7月)	154号(8/9月)
155号(10/11月)	156号(12/1月)	157号(2/3月)

② WEBサイトの運用

幅広い情報のやりとりが可能なインターネットを活用し、多様かつ即時性の高い情報発信を行う。

日本キャンプ協会の基本情報や新着情報を提供するほか、イベントカレンダーでは都道府県キャンプ協会等が実施する事業の紹介も行う。

③ メールマガジンの配信

イベント、研修会、キャンプ実施に活用できる助成金の情報などを掲載したメールマガジン「CAMPING News」を発行する。

発行回数：年間17回程度(3週間毎)

送信件数：約1,500件

④ キャンプインフォメーションセンター

広く一般に向けた情報提供を行う目的で、キャンプインフォメーションセンターを運営する。キャンプに関する相談に応じるほか、キャンプの企画・運営受託や各種関連事業に対する講師派遣等を行う。これにより、キャンプの普及を図るとともに、キャンプ指導者の活躍の場が広がることも期待される。

(6) 都道府県キャンプ協会の広報活動の支援

会員が身近な地域の情報を得ることができるよう、都道府県キャンプ協会の広報活動の支援を行う。

- ・ 会報同封サービス(会報誌等をCAMPINGに同封して会員に安価に送付するサービス)の提供
- ・ WEBサイト用サーバー及び専用メールアドレスの提供
- ・ 各種情報の提供

(7) 国内外の情報の収集と提供

国際キャンプ連盟やアジア・オセアニア・キャンプ連盟等の国際ネットワークを活用して情報の収集を行い、会員等に提供する。また、10月にオーストラリアで行われる第5回アジア・オセアニア・キャンプ会議の参加ツアーを企画し、国内外のキャンプ関係者の交流機会を設ける。

- ① 第5回アジア・オセアニア・キャンプ会議 in シドニー参加ツアーの企画
 会議日程：10月18日(金)～22日(火) ※ツアー期間はこの期間を含む1週間程度を予定
 会場：ノボテル・シドニー・オリンピック・パーク (オーストラリア)

- ② アメリカキャンプ協会年次大会への参加
 会議日程：2月5日(水)～8日(土)
 会場：ヒルトン・オーランド (フロリダ州オーランド)

(8) 安全啓発キャンペーン (安全標語の募集)

キャンプを楽しく有意義な活動とするためには、一人ひとりが安全意識を高めることが求められる。そこで、7月第3日曜日の「キャンプ安全の日」を中心とする7月・8月に安全啓発キャンペーンを実施する。

また、それに先だって安全標語の募集を行い、野外における安全について、多くの人に考えていただける機会を設ける。

安全標語募集期間：4月1日(月)～6月20日(木)

安全啓発キャンペーン期間：7月1日(月)～8月31日(土)

キャンプ安全の日：7月21日(日) ※7月第3日曜日

(9) 静岡県立朝霧野外活動センターの運営

指定管理者として7年目となる静岡県立朝霧野外活動センターの運営を通じ、多くの人々の自然体験活動を支援するとともに、施設や地域の潜在的な力を継続的に発掘し、多様なプログラムの提供を図る。さらに、周辺地域との協働によって新しい活動領域の開拓を進める。

青少年自然体験事業

事業名	日程	対象	備考
朝霧高原サマーキャンプ ～つながろう富士山～	6/30(日)	小学校5～6年生	事前研修
	8/3(土)-11(日)	中学校1～3年生	本研修

野外教育指導者養成事業

事業名	日程	対象	備考
野外活動プログラム実習	4/12(金)-13(土) 11/1(金)-2(土)	利用団体の担当者・指導者	
長期キャンプ指導者 養成講習会	6/15(土)-16(日)	専門学校生 短大生 大学生	全4回参加が条件 8/4-12は朝霧高原 サマーキャンプと 併行開催
	7/6(土)-7(日)		
	8/3(土)-11(日) 10/19(土)-20(日)		
野外教育指導者養成講習会	2/7(金)-9(日)	野外教育に興味のある人 青少年団体の指導者 教育関係者	

県民自然体験事業

事業名	日程	対象	備考
ちよつといい春感じませんか	4/20(土)-21(日)	家族・小グループ	
朝霧高原 トレイルランニングレース	9/7(土)-8(日)	家族・小グループ	
すてきな秋をあなたに	10/5(土)-6(日)	家族・小グループ	
オリエンテーリング in 朝霧	11/23(土)-24(日)	家族・小グループ	
スケートキャンプ	12/13(金)-14(土)	家族・小グループ	
	1/17(金)-18(土)		
	2/21(金)-22(土)		
	3/7(金)-8(土)		
223(ふじさん)ウォーキング	2/23(土)	家族・小グループ	静岡県富士山の日
スケートフェスティバル in あさぎり	11/3(日) 2014年3月	家族・小グループ	

施設開放事業

事業名	日程	対象	備考
プラネタリウム一般開放	原則毎月第3日曜日 春休み・冬休み	家族・小グループ	13:15～14:45 15:00～16:30 静岡県家庭の日協賛事業
スケート一般開放	11月～3月の原則日曜日 春休み・冬休み	家族・小グループ	13:00～15:30 15:30～18:00 静岡県家庭の日協賛事業
朝霧カーニバル	11/3(日)	どなたでも	

社会問題に対応した事業

事業名	日程	対象	備考
ホッとキャンプ	3/4(火)-7(金)	不登校児童・生徒 引きこもりがちな青年	

(10) 都道府県キャンプ協会に対するキャンプ用品・用具の配備

都道府県キャンプ協会がより多くの人を対象としてキャンプの普及につながる事業を行えるよう、助成金を受けて、キャンプや講習会等で活用できるテント等のキャンプ用品、用具を配備する。

※財団法人日本宝くじ協会に助成金を申請（10月に申請済み）

(11) キャンプ運営に用いる車両の更新

グリーンフィールドをはじめとするキャンプの運営等に用いる車両について、助成金を受けて更新する。

※日本郵便株式会社に助成金を申請（11月に申請済み）

よりよいキャンプを実現する指導者養成の事業（公2）

キャンプの有用性・有効性を最大限に発揮させ、人々の心身の発達に寄与することのできるキャンプ指導者の養成は、本協会発足以来の大切な事業である。課程認定団体とともに指導者養成を着実に進めると同時に、キャンプによる社会貢献を明確に意図した資格制度となるよう、指導者資格制度の見直しに着手する。

（1） キャンプ指導者養成

- ① キャンプインストラクター養成
※ 課程認定団体（全172団体）が実施
- ② キャンプディレクター2級PD（プログラムディレクター）養成講習会
4会場程度を予定
※ 課程認定A団体（都道府県キャンプ協会）主催で実施
- ③ キャンプディレクター2級MD（マネジメントディレクター）養成講習会
日 程：2014年2月8日（土）～9日（日）
会 場：国立オリンピック記念青少年総合センター
※ このほかに課程認定B団体（課程認定校）でも養成を実施
- ④ キャンプディレクター1級養成講習会
日 程：11月1日（金）～11月4日（月・祝）
会 場：国立中央青少年交流の家
- ⑤ キャンプディレクター1級検定会
日 程：2014年1月25日（土）～26日（日）
会 場：国立オリンピック記念青少年総合センター

（2） キャンプ指導者の審査・認定

- | | |
|-----------------------------|-----------|
| ① キャンプインストラクター新規資格申請者の審査・認定 | 目標 3,100人 |
| ② キャンプディレクター2級申請者の審査・認定 | 目標 110人 |
| ③ キャンプディレクター1級申請者の審査・認定 | 目標 15人 |
| ④ 指導者資格（インストラクター・ディレクター）の更新 | 目標 8,400人 |
| ⑤ 課程認定団体の審査・認定 新規課程認定団体 | 目標 10団体 |

（3） ディレクター・ゼミナール（仮称）

指導者養成の質を一層高めるため、キャンプディレクター養成講習会講師レベルの指導者を対象とした少人数、短期集中型の講座を実施、グループワーク等について学ぶ。

- 日 程：9月～10月頃を予定（4回程度）
会 場：国立オリンピック記念青少年総合センターほか

(4) 課程認定団体向け研修会

カリキュラムに則った指導者養成が行えるよう、課程認定団体を対象とする研修会を実施する。また、取得資格の活用が進むように課程認定校と都道府県キャンプ協会を結びつける取り組みを進める。

① 課程認定 A 団体（都道府県キャンプ協会）向け研修会

内 容： キャンプインストラクター及びキャンプディレクター2級 PD 養成講習会の進め方

日 程： 3月16日(日)

会 場： 国立オリンピック記念青少年総合センター

※ 第2回都道府県キャンプ協会指導者研修会の中で実施

② 課程認定 BC 団体（課程認定校等）向け研修会

内 容： キャンプインストラクター及びキャンプディレクター2級 MD 養成の進め方

日 程： 6月5日(水)

会 場： 国立オリンピック記念青少年総合センター

③ 課程認定校と都道府県キャンプ協会を結びつけるための取り組み

課程認定校でキャンプインストラクター資格を取得した学生が、地域で行われている事業に参加するきっかけができるよう、課程認定団体に対する情報提供等を行う。

- 課程認定団体向けに BUC 事業などを紹介するメールマガジンの発行
- 課程認定団体研修会での交流機会の設定

(5) 指導者養成のためのテキスト発行

キャンプインストラクター養成用として「キャンプ指導者入門」、キャンプディレクター養成用として「キャンプディレクター必携」の2種類のテキストを発行する。

(6) 資格制度の改正の取り組み

キャンプムーブメントを広げ、キャンプによる社会貢献を広く進めるためには、豊富な知識、技能を持つだけでなく、幅広い視野を併せ持つ指導者の存在が欠かせない。こうした指導者をより多く輩出できるよう、2016年度の完了を目途に資格制度の改正に着手する。

(7) 都道府県キャンプ協会指導者研修会

全国の都道府県キャンプ協会の指導者が集まり、それぞれの協会の状況等を共有し、継続的な指導者養成、協会運営を可能にするための研修を行う。

第1回 日 程：5月26日(日) 会 場：国立オリンピック記念青少年総合センター

第2回 日 程：3月16日(日) 会 場：国立オリンピック記念青少年総合センター

(8) 都道府県キャンプ協会の実施する BUC 事業等の承認及び支援

キャンプ指導者が新しい知識や技能を身につけたり、指導者同士が顔の見える関係を作ったりすることを目的に実施される BUC (Brush UP & Communication) 事業を承認し、支援する。

※ 所定の期間に BUC 事業に参加し、手続きを完了した会員に対しては、次年度の資格更新料を免除する。

キャンプの質の向上につながる研修及び調査研究の事業（公3）

キャンプの質を高め、普及を進めるためには、新たな取り組みについて知ったり、専門的な研究結果に学んだりすることもまた重要である。会員同士が情報を持ち寄り、学びあう機会を設けると同時に、新しい情報を蓄積、整理し、わかりやすく社会に提供する。

（1） Camp Meeting in Japan 2013～第17回日本キャンプ会議～の開催

キャンプの実践報告と研究発表を中心に、有意義な情報を共有し、多くのキャンプ関係者が交流する機会を設ける。

日 程： 5月25日（土）

会 場： 国立オリンピック記念青少年総合センター

内 容： キャンプの実践報告・研究発表等

（2） 定期刊行物「キャンプ研究」の発行

キャンプに関する論文、実践報告等をまとめた「キャンプ研究」を発行する。

「キャンプ研究 第17号」 2月発行予定

（3） キャンプサロン

若手キャンプ指導者を中心に、講師を囲んで意見交換をしたり、相互に事例発表等を行ったりする、交流と学び合いの場を設ける。

日 程： 2013年6月から年8回程度

会 場： 国立オリンピック記念青少年総合センターほか

（4） 安全情報の収集と提供

キャンプ運営者並びにキャンプ愛好者が安全にキャンプを楽しむことができるよう、野外における安全に関する情報を収集し、わかりやすい形で提供する。

法人事務

日本キャンプ協会の適正規模を模索するとともに、運営の効率化を図り、健全な財務管理に努める。また、新たな支援者層の獲得を目指して、その方策を検討するとともに、キャンプの最前線である都道府県キャンプ協会が円滑に事業を行えるよう効果的な支援を行う。

(1) 諸会議の開催

・ 総会	第1回 5月25日(土)	第2回 3月15日(土)
・ 理事会	第1回 5月25日(土)	第2回 3月15日(土)
・ 常務会	随時	
・ 都道府県キャンプ協会指導者研修会	第1回 5月26日(日)	第2回 3月16日(日)
・ ブロック会議	都道府県キャンプ協会指導者研修会内及び各ブロックによる実施	

(2) ファンドレイジングの組織づくり

キャンプはその誕生以来、青少年の健全育成や、スラムで暮らす子どもたちの教育環境改善、障害を持つ人たちのクオリティ・オブ・ライフ（生活の質）の向上など、さまざまな社会的課題に対応するための手段として活用されてきた歴史を持つ。そして、こうしたキャンプは多くの人々の篤志によって支えられてきた。

日本キャンプ協会がキャンプを通じた社会貢献を意図し、一層の取り組みを進めるためには、常に協会を支え続けている会員に加え、新しい支援者層の獲得が不可欠となる。この年度は、ファンドレイジングの組織づくりを具体的に進める。

(3) 都道府県キャンプ協会の活動に対する支援

- ・ 都道府県キャンプ指導者研修会の開催（5月・3月）
- ・ 都道府県キャンプ協会の行う諸事業の支援
- ・ 「県協会運営のてびき」の配布（5月）

(4) 日常法人事務

- ・ 会員情報管理
- ・ 会費等徴収
- ・ 事業方針・計画・予算の管理
- ・ 日常経理業務
- ・ 事業運営管理
- ・ 助成金事務
- ・ 人事管理・研修
- ・ 渉外事務
- ・ 庶務

Gift for the Next 100 Years

公益社団法人日本キャンプ協会

www.camping.or.jp